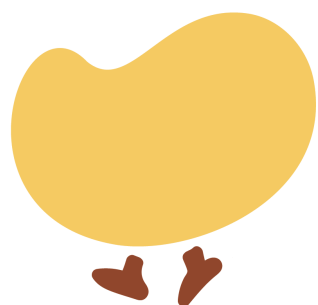


東京学芸大学 こどもの学び困難支援センター



sure
for All
Children

令和3年度シンポジウム

こどもの「学び困難」とその支援

2022年 3月19日(土)

13:00～16:45

オンライン開催

東京学芸大学では、令和3年度より新たに「東京学芸大学こどもの学び困難支援センター」を開所しました。このセンターでは、貧困、虐待、不登校といった、環境要因に影響を受けて生じやすい「学び困難」に着目し、全国の教育福祉機関・団体等と連携しながら、すべてのこどもに学びが保障されるための教育協働や教員・教育支援者養成のあり方を研究開発することを目的としています。

本シンポジウムではまず、本センター設立に先立って進めてきた東京学芸大学の研究プロジェクトの成果の振り返りと、今年度の実践研究の報告を行います。これをもとに、貧困、虐待、不登校を巡る最先端の研究から示唆を得ることを通じて、こどもの「学び困難」に関する理解を深め、その支援のための教育協働や教員・教育支援者養成のあり方を展望します。

教育・福祉領域をはじめ、こどもの学びや育ちに関心を寄せる多くの方々のご参加をお待ちしております。

参加費無料 定員200名(先着順)
事前申し込みをいただいた方には、
シンポジウム参加用のURLを
お送りします。
右QRコード、もしくは下URLから
お申し込みください。



<https://forms.gle/hRz2928nHxbq6FMR7>
ページから入力フォームにアクセスしてください

対象：学校教員、教育支援専門職(スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等)、
教育委員会関係者、NPO等の教育支援活動団体
関係者、貧困支援に関わる民間団体・企業、地
域での支援者、大学教員、学生、市民



プログラム

【オープニング】（13:00-13:30）

学長挨拶

國分 充（東京学芸大学長）

文部科学省講話

江口 有隣（文部科学省初等中等教育局児童生徒課長）

センターの概要説明

入江 優子（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター准教授）

【第一部】 こどもの貧困に関する先導的プロジェクト研究を振り返って （13:30-14:00）

東京学芸大学が令和3年度までに取り組んできた、こどもの貧困プロジェクト研究によって得られた知見を振り返りつつ、こどもの学び困難支援センターによる成果の継承や研究開発の継続・発展可能性について展望します。

小学校入学時のスタートカリキュラムに関する研究開発の観点から

伊藤 秀樹（東京学芸大学准教授）

中学校における多職種協働に関する研究開発の観点から

小林 拓哉（東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト特命助教）

地域の居場所支援と支援者養成に関する研究開発の観点から

田嶋 大樹（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター講師）

<休憩>（15分）

【第二部】 こどもの「学び困難支援」の実践と研究～これからを展望する～ （14:15-16:45）

貧困・虐待・不登校をトピックとし、それぞれについて、こどもの学び困難支援センターが連携・協働して研究開発を進めているモデルフィールドにおける取組報告と、最先端の研究から示唆を得ながら理解を深めます。また、その上で、こどもの「学び困難」について議論し、教育協働や教員・教育支援者養成の観点で今後取り組むべき実践や研究の課題について展望します。

<取組報告>

①「こども食堂と大学が連携したによる「学び困難」支援」 貧困モデルフィールド（沖縄）

神谷 康弘（名護こども食堂）

②「学校・関係機関・民間団体が協働した「学び困難」支援」 虐待モデルフィールド（大阪）

野田 満由美（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター客員准教授）

③「ICTを活用した不登校の子どもたちの「学び困難」支援」 不登校モデルフィールド（東京）

森崎 晃（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター客員准教授）

<コメンテーター>

本村 真（琉球大学 教授）

野田 正人（立命館大学 特任教授）

松田 恵示（東京学芸大学副学長）

<コーディネーター>

加瀬 進（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター長・教授）

お問い合わせ

※シンポジウムの内容や申し込みに関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。

東京学芸大学こどもの学び困難支援センター MAIL:ccss@u-gakugei.ac.jp



sure
for All
Children

〇ロゴマークについて

包み込む手、支える手、優しく触れる手、おいでおいで！とする手、センターが持つあたたかい手を抽象的なシンボルにしました。「sure」はsupportの「su」、researchの「re」をとり「シュア」と読む、本センターの愛称です。